

2016年6月21日 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
千葉大学ALPSプログラム 第2回シンポジウム  
「新しい専門的大学職員に求められる教育・学修支援の専門職性とその養成」  
参加者アンケート

当日参加者数： 104名（アカデミック・リンク・センター・附属図書館関係者を除く）アンケート提出数： 78件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいます。今後の活動のために、本日のシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ 教育学修支援の専門職性に必要な能力ルーブリック(試案)について初めて知りました。期待しています。
- ・ わが国の大学の歴史など現状がよくわかりました。
- ・ (教員として)職員の方の気持ち/考え方、教務系職員のSDツールがないことなどがよく分かった。
- ・ ALPSで新しい履修プログラムを試案している内容がわかって、興味が湧いた。
- ・ 山本先生の大学職員に関する高度な専門的な知識を聞くことができ、とても勉強になった。
- ・ 教務事務の現場の臨場感が伝わってきた。
- ・ 職業上の能力・求められるものは、どの職種・業種でも同じということ。専門性は所属する機関で違うこと。所属する機関をこえた専門性が別にあるかもしれないこと。国立大と私立大の違いが意外に本質的であること。
- ・ 大学の職員力をルーブリック化する取り組み。職員に標準的に求められる力について。標準化できることは、大学業界を目指す人に公開できると有用か。
- ・ 学修支援の重要性と専門的職員の必要性。
- ・ 今の大学職員に求められている能力について、あらためて知ることができました。また、普段から感じていた、教務系職員の置かれている状況について、講師の先生のお話の中に共感できる点が多々あり、勉強になりました。
- ・ 専門職員としての大学職員に求められる能力について、ルーブリックやその項目、行動特性が非常に分かりやすく、勉強になりました。
- ・ 大変参考になりました。ルーブリック→研修プログラムへの転換・移行を目的としたものであるということ。
- ・ 千葉大で履修証明プログラムを作成している事を初めて知りました。今後、具体的な募集などが始まりましたら、情報提供をお願いします。
- ・ 能力ルーブリックとその項目、素晴らしいと思いました。履修証明プログラムを受けてみたいです。KKDなるほど！と思いました。
- ・ 教育・学修支援のための知識・能力体系づくりとして、まず自分が何をまとめていかなければならないか、再認識する良い機会となりました。
- ・ 職員として身につけておきたい能力・スキルの全体像。足りない能力を個々に身につけようとしていたので、全体像を見て、自分で考えていなかったような知らなかった能力・スキルの項目が増えました。教育の歴史も勉強になりました。

次頁に続く

- SD 支援のための能力ルーブリック(試案)については新しい発見(具体的で素晴らしい)であった。また大学職員における教務系の職員の立場について説明を受けて、なるほど、と理解することができた。
- 教職協働。
- 人材育成に関わる部署に勤務しているため、今後の大学職員育成プランの策定におけるヒントになった。
- 第1回目と今回とで今の大学教育をとりまく時代背景や変化について、ALPS プログラムについての理解や必要性の認識がさらに深まりました。能力ルーブリックと履修プログラムの詳細は初めて拝見しましたが、ここまで具体的に中身ができあがってきているとは思っていなかったの、驚きました。
- 伝統の良い所だけを残した良い職員を増やしたい。
- 研修プログラムの計画があるということ、ぜひ受講したいです。
- 必要な能力などがよく分かりました。
- 教務系の職員の育成に時間がかかることが学内で理解されにくいように感じています。最低限修(習)得すべきことのヒントを得ることができました。
- 職員の能力が細かく文章になっていて、とても参考になりました。
- 大学職員(特に教務系)についての現状と展望。「教職協働」という言葉。
- FD から SD になったという感想を持ちました。
- 私は今年度よりはじめて教務担当になりました。それまでは学務以外の業務をしていましたので、本学ではターム制に移行したり、システムが変わったりして、それらの対応に手一杯になっておりましたので、今回教務について基本的な知識を学べたことはとても有益でした。資料は学部内でも回覧させていただこうと思います。
- 大学職員として SD や自己研鑽の必要性をよく耳にしますが、具体的な行動についての説明を受けたことはありませんでした。能力ルーブリックの行動特性は非常に参考になりました。
- 職員の「能力ルーブリック」(試案)は面白いと思った。18 才人口の急激な減少からくる大学職員の能力向上が必要であることを発見した。
- ルーブリックに期待しています。職員の育成プログラムとして参加も検討したいと思います。教務系職員の基本となる部分の定着に使えるのではと考えております。本来は各大学が独自に考えていかなければいけない(私生活の場合とくに)と思いました。
- 学修コンシェルジュのような取組は、本学でも必要と考えており、今後具体的に検討する予定なので、大変参考となった。
- 大学の(教務系)職員に求められる能力がルーブリックとして可視化された(全てではないが)ことは新たな「発見」だと思いました。
- 学修支援について、本学でももっと力を入れていく必要があると感じました。
- 学生系の部署を経験した後に図書館にいます。ルーブリックに表現しにくい「ちから」をつけて、伝えていく方法を探りつつ実践するようにしていこうと思いました。
- 1つの部署が単独で学修支援に取り組んでいるタテ割りの組織が多いと思うが(本学は少なくともそれにあてはまる)、ヨコに串ざしたような横断的な組織の仕組みづくりが必要なのだと思う。

次頁に続く

- ・ 実学・虚学。大学として今後どの方向へ行くのかを見極めることの指針のキーワード。
- ・ 大学職員の中での学生課の立場が弱い(下に見られている)ものであるということ。
- ・ 大学ほぼ全入時代となり、より細かいサポートを学生にしていることを知りました。
- ・ 理論と実践(現場を知ること)のバランスは大事であると実感した。職員のルーブリックは自分達の業務を整理したり業績評価にも使用できるのではないかと思った。
- ・ 千葉大学さんで作成されたルーブリックを拝見し、学修支援の専門的職員養成の手順等を詳しく知ることができ、大変参考になりました。
- ・ 知見と経験が優秀な職員の資質。
- ・ 教務業務のルーブリックを作成したいと考えていたので、参考になりました。
- ・ 大学を取り巻く環境について、どんな時代にあるのか、大学職員として進むべき道が勉強になった。
- ・ 教務系職員の重要性。
- ・ 大学設置基準の第 41 条、42 条に関しての見直しは必要と感じました。職員の能力開発も重要なことではありますが、基準等の環境を整備することも能力を発揮する上で重要なことと考えます。
- ・ 能力ルーブリック作成の課題が本日のパネルディスカッションで分かった。
- ・ 本日も報告のあったルーブリック試案については、職員としての階層別の目標管理や人事考課への活用も有効であると感じました。
- ・ ルーブリックが役に立てそうである。
- ・ 村瀬先生のお話にて、学生・教務部門の職員の旧位置付けが分かり、今でもその由来がみられる現象について、合点がいった。
- ・ ルーブリックの背景、作成の過程。履修証明プログラムとルーブリックの関係。
- ・ ルーブリックと履修証明プログラムをはじめて理解しました。今後 SD としても積極的に参加したいと思います。
- ・ 能力ルーブリックの開発によって、職員知識の向上及び大学としての発展への助力となるように感じました。
- ・ アカデミック・リンク・センターが研修プログラムを行う計画であることを知らなかったので、大いに期待します。
- ・ 教職協働というのは、本学ではある程度できていると思うが、その大切さについてもあらためて考えさせられた。
- ・ ルーブリックが大変刺激的でした。

## 2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ 山本先生へ、政策策定サイクルの短期化と頻繁化の理由と、その影響についてご意見を伺いたかった。(都合で講演までしか出席できなかったのだ)
- ・ ALPS の履修証明プログラムは、千葉大の職員は誰でも受講できるのか？所属の制約があるのか(学務系、または今後学務系所属の職員が対象となるのか？)。職種を超えて興味があれば履修できるものなのか？職員課の職員研修にはなぜこのような内容の講義がないのか。共同したらよいのでは？

次頁に続く

- ・ ルーブリックの尺度が4層であること、他の考え方があるか？
- ・ モデル(アメリカ、イギリスなど)がありますか？そのモデルに対して作られたルーブリックの自己評価はいかがでしたか。
- ・ ディスカッションの質問に出た“教職協働”の実践例が若干不明確であった。
- ・ ルーブリックから、どうプログラムを組み立てられたのか、どのようにそれぞれの項目を分けられたのか、もう少し詳しく聞いてみたいです。そこから、各大学で行っているSD、FD研修との違いや意義のようなことがつかめるのではないかと思います。
- ・ 学生の意見を聞く風潮があるが(学生FD、学教職協働)、その点をどう考えているか。
- ・ 現場での“日々ある問題”についての解決力という様な能力、まだ“言語化できない力“ののび方について事例からなどでも教えていただきたいと思いました。
- ・ “新しい専門的の大学職員”のキャリアパス。
- ・ ルーブリック評価基準の評価はどういった機関、部局が行うか。
- ・ 山本先生は出来る職員を目指せと述べられておりますが、村瀬氏は理論より実務重視。改革を述べると“うるさい職員”となってしまいます。その場合、この2つをどのくらいでバランスさせるとよいでしょうか？
- ・ 職員による学修支援がうまく機能し、卒業するまでに力が身につけられている成功例や理想の姿。→目標とすべき姿などのイメージ。
- ・ 桜美林や東大等の大学院教育と、本プログラムのすみわけや、それぞれの役割があいまいであるように感じました。ルーブリックは着地点が見えずキリがないという意見もあるようです。
- ・ 図書館職員ルートに参加案内はなぜだったかな？大学職員・教員ルートは発信しなかったのかな？と疑問に感じた。
- ・ カルト関係者の入学取り消し→その後が知りたかったです。(裁判？みずからの入学試験の意味？取り消し理由)
- ・ 2020年以降の大学運営の方向性。
- ・ パネルディスカッションも出ていましたが、優秀な能力を持った職員を養成しても、教員側の意識の変化が見られなければ、専門性を持った職員を大学として十分に活用することは難しいのではないかと感じました。
- ・ 村瀬様からのお話があったルーブリックに表現できない部分をいかに体系づけるか。非常に難しいと感じた。
- ・ ルーブリックを最終的に何に用いることを想定しているか。(勤務評価か、能力開発の指針か、それ以上か)
- ・ 私は図書館職員なので、教務学生系とは言えないが、同じ職員として協力体制が必要だと思うので、連携についても知りたい。
- ・ 履修証明プログラムが今後どのような形で現実化されるか。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・ 教育・学修支援で ALC が取り組んでいるような事以外思い浮かばない。事務系職員にも体験できる機会があるとよい。大学全体で意識して取り組むべきだと思う。
- ・ 能力要素と同時に重要なのは価値観・情意・エモーショナルといった人間性のような観点は必要な態度かと思えます。
- ・ 学修支援について、専門的職員にのみ負担が集中しないような仕組みも必要だと考えます。
- ・ 学修支援の専門性に関して、教員と対等に学生と事務局をつなぎ、教育活性化に反映できるようなコンサルタントでありマネージャーのような業務を担っていく能力が必要とされているように日々感じております。
- ・ 私立大学で比較的新しい大学なので、教職協働はできていると思うところもありますが、やはり職員同様、先生方の中にもやってくれる方とそうでない方がいます。たくさんの方を巻き込む難しさを感じていますが、やはりできるだけ多くの賛同を得て、協力してもらえる力が必要だと思います。それには信頼関係はもちろん、様々な分野への興味(勉強)、コミュニケーション力、知識など総合的な力が必要なのかなと思いました。
- ・ 忙しい中で勉強を続ける気力を持ち続けることが課題です。
- ・ 必要と思う能力:傾聴力、コーチング力、リーダーシップなど。取組事例:TOEFL チューター制度。
- ・ 本学の“学生会館”は貴校の教育・学修支援の拠点であるアカデミック・リンク・センターを目標として設立されました。更に今後 2 年間をかけて図書館の増改築が予定されています。貴校の実践例をとても参考にさせていただきます。
- ・ 忍耐力。
- ・ 「教育・学修支援」の概念が広がっている点や、これに関わる職員らトータルで考えて共通して必要なスキルがあるのではないかとのお話はかなり共感できました。一方で、それぞれの職務に応じたスキル、職員養成というものもやはり大切で、それをどう支えていくか、伝えていくか、ということはまだまだ足りているとは言えないように感じるので、その 2 つの観点をどちらも持ちながら、これからの教員・職員養成を考えたいです。1 番必要なスキルはルーブリックで言う④⑥だと感じています。
- ・ 知識、対応力。
- ・ 大学ごとのニーズの違い(有名校、レベル低い大学)に着目したトピックがあってもいいと思う。学生不在で論じているように思う。学生ニーズをつかむ力。
- ・ 昔の学生部が村瀬先生のお話に登場しましたが、教養部同様、今は昔ですね。
- ・ 学修支援に必要な能力:コミュニケーション力、学術情報リテラシー能力。学修支援に必要な資質:人心掌握力、社交性、フットワークの軽さ。
- ・ 教育内容とリテラシーが分けて考えられるのではなく、本当に必要な科目内容として、それをしっかりと浸透させるための学修支援ができれば。
- ・ 学修支援をしっかりとするために、その科目を実際に履修しなくてはいけないかもしれない。経営の保全と学生の育成支援を両方できる人が職員では。各大学でクレドがあるとよい。
- ・ 大学の教務事務に関する連絡会として、「千葉県大学教務事務担当者連絡会」がある。県内私立大学のみに参加になっています。

次頁に続く

- ・ 多様な学生に対し、適切な対応を施していくためには、学生一人一人と顔を突き合わせ、密なやり取りをすることが重要。規模の小さい大学であれば、全学生との面談の機会を設けるなど。本学では、2年進級時の学類選択の場面において、全学生との面談を行うことを予定している。
- ・ 職員がアカデミア界に自身の「専門性」をもって参画していき、大学という「共同体」を作り上げる意識を形成していくこと(漠然としています)。職員が論文執筆(学内紀要)をするという取り組みをはじめました。今後は、学会での発表も行っていく予定です。(授業やゼミの受講も長期的には考えています。)→大学院進学やプログラム履修が地方勤務者にとってハードルになるのではと考えています。
- ・ 学修の振り返りやフォローは職員がもっと参画してもよいのではないかと。本学では、キャリアコンサルタントの資格をもった職員が学生との面談を行っているゼミが1つある。
- ・ 学生のために考え、行動できる力。課題解決する力。
- ・ 学生が集まる事ができる場所の提供。
- ・ 養成も必要なことではあるが、現在の教員・職員との関係性の見直しについて、事例として貴学の取り組みなども発信していただけたらと思います。成功事例を期待しています。
- ・ 理論も現場もどちらも必要で重要ですが、組織内で1人だけが理論を知っていても使えません。多くの人が共通の認識、共通言語として理論を知った上で現場対応ができると思います。少しでも多くの職員が履修証明プログラムをとり、みんなで向上していける業界になるといいと思います。多くの人が受講しやすいプログラム(日時内容も)にさせていただけるよう期待します。
- ・ 個人的には「どれだけ自分の学校が好きか」「学生のためには何でもしてあげたい」という気持ちがベースになると、学生支援は出来ないと思っています。
- ・ 個人の意識で個人的に能力開発に取り組んでいるという状況です。良い意味で教員に一目おかれることを目指しています。この件はまず「〇〇さん」の意見を聞かないと…。職員の視点で委員会等で提案できることが大切。一緒に議論できることが大切。
- ・ 公立大学は異動サイクルが短いため、この環境を前提とした教務事務向け研修会を公大協と本学の共催で年4回実施しています。
- ・ 本学でも学修支援は手探り状況です。研修プログラムで能力開発につながることを期待します。大学を取り巻く危機感と学生に寄り添う気持ちが大切だと思います。
- ・ 以前の所属先で、院生の学修サポートスタッフへのレクチャーを教員にしてもらったことがあるが、このようなルーブリックがあれば非常に有益だと思う。

#### 4. 本日のシンポジウムの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ 本日はルーブリックのご説明から始まり、山本先生の明快なご説明、また村瀬先生の実務の紹介など様々な角度から専門的職員へのアプローチがあり、大変貴重なお話を伺えました。ありがとうございました。
- ・ とても興味深い取り組みでした。今後の動向を楽しみにしております。
- ・ 新しい知見を得ることができました。ありがとうございました。良いプログラムを作っていくことも必要ですが、「まずやる」という危機感と勢いも必要かと感じました。

次頁に続く

- 先生方のお話が非常にストレートで、想像以上に率直であることに驚きました。
- 時間が短かった。
- 資料も多数あるのでメモ取り用の机が用意していただけるとありがたかった。講演の時間がもう少し多めだとありがたかった。
- たくさんの共感と気付きを与えていただきました。ありがとうございました。
- 貴重な機会をいただきましてありがとうございます。これからの答えのない教育のあり方の中で自己の能力を活かし、教育支援、学生支援、学修支援に貢献していただくための学びになりました。
- 非常に有意義な時間だった。ありがとうございました。
- 大学の教務 Q&A という本の内容が気になりました。ルーブリックをうまく活用しながら、現実の問題を解決していく必要性を感じました。
- やはり学修支援は誰でもできるものではないと感じました。何となくできる人もいますが、きちんと指導を受けて専門職性を持つべきです。大学職員誰が対応しても同じ質の保証をしなければいけないと思いました。今後も学生のために尽力していきたいと思います。ありがとうございました。
- 教員、職員を問わず支援者への支援体制を作ること。「ひとりにしないこと」は支援対象である学生に対して配慮する前に、支援者に対しても配慮できる組織であることを望みたいと思います。
- とても有意義な時間でした。私はプログラムが素晴らしいと思います。職員として身につけたい知識・スキルがないのは苦しいと感じます。学生の力になりたいのになれないのはもどかしいです。プログラムはこの問題を解決するヒントになると期待しています。
- 多くのことを学びました。特に大学職員の立場からみた大学運営について知ることが出来て良かったです。またアカデミック・リンク・センターを見学できて感激です。
- ラーニングコモンズ等、図書館でも学修支援が必要となってきたため、何かヒントを得られればと思い、参加させていただきました。図書館職員は学務系職員よりさらに下におります…。
- 貴重なお話、ありがとうございました。プラン策定にあたって、白川先生にも相談させていただければ幸いです。準備を担当されたスタッフの皆様、お疲れ様でした。
- それぞれの視点の異なるお話が聞けて、とても参考になりました。どうしても実務者側の印象・考えに偏ってしまいがちなのですが、こうして全体を捉える会に参加させて頂くと、客観的に自分の仕事を捉えられて、ハッと気づくことがあります。ありがとうございました。
- 村瀬先生のご著書は2冊とも個人購入して持っています。しかしながら『大学教員免許講習 Q&A』は版元には在庫がなく、アマゾンにもあと2〜3冊です(2016年3月に確認)。ぜひ増刷してほしいです。おそらく図書館で買いたくても買えない大学が多いと思います。
- 国立大学・私立大学とも民間の交流といったことも意味があるのではないかと思います。
- 日々学生支援、窓口での対応がうまくいかなかったり、反省したり、落ち込んだりしています。いつかルーブリックが評価基準となるのであれば不合格となるかもしれません。少し怖さも覚えました。
- 貴重なお話をメモして帰りたいと思いますが、例えばサテライト会場は別部屋(机や背もたれのあるイス)にて行うことは可能でしょうか？

次頁に続く

- ・ 大変勉強になる内容でした。ありがとうございました。
- ・ とても興味深い内容の話が聞けたが、メモが取りづらく大変だった。
- ・ とても有意義なシンポジウムでした。ありがとうございます。18才人口の急激な減少の中、大学には多様なステークホルダーがいるため、社会的な説明責任を果たすために柔軟な思考と判断力が職員には必要なのではないかと思った。
- ・ 村瀬先生のおっしゃった事例について、もう少し掘り下げて聞きたかったです。
- ・ 30年前の教務事務を担当していた頃の業務の思い出がよみがえってきました。個人的には、職員の意識改革が必要であり、部署の特性がすべてではないかと思えます。
- ・ ディスカッションが教員・職員が同等の立場での協働ができている事例だなと思った。
- ・ 村瀬先生のお話は、自分の教務業務と重なった部分があり、とてもよかった。行きつくところは人間力でしょうか。職員の立場の向上のために今後も期待したい。
- ・ 講師お二人の人选、とてもバランスが良いと感心しております。まとめの部分がよく理解できました。また聴きたいです。ありがとうございました。
- ・ 私は修士の学位を持つ図書館員(司書)ですが、専門的な能力を持つ「大学職員」が活躍できる土壌が日本の大学に備わっているのかについて、考えることがあります。※個人的にはルーブリックの重要性は認識しています。勉強になりました。研修プログラムも期待しています。
- ・ 能力項目ルーブリックと人事考課(評価)との関係性というか、何の為のルーブリックということを考える必要があると考えました。※次回ありましたら、机のある会場にしてください。
- ・ 今回初めて参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・ KKDは必要な要素だと思います。
- ・ 近年身分違いによる勤務者の対応が気になりました。
- ・ 大学に入職以来、ずっと教務学生系部署にたずさわっておりますが、村瀬様のお話には共感をもって聞かせていただきました。また、ルーブリックにつきましても、日々の業務の指標として参考にさせていただきたく思います。本日はありがとうございました。
- ・ 学外にも公開して頂きありがとうございました。
- ・ 今後の大学としての取り組みの一つとして、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 短時間過ぎて、内容の割にはちょっともったいないと思う。

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方【65名】      b. 千葉大学学内の方【13名】
- (2) a. 学生【0名】      b. 教員【5名】      c. 大学職員(図書館職員を除く)【49名】
- d. 図書館職員【17名】      e. 出版関係【1名】      f. その他【3名】      未記入【3名】



6. シンポジウムを何で知りましたか？

- a. Web(アカデミック・リンク・センター)【14名】 b. Web(図書館)【2名】  
c. Web(千葉大学)【4名】 d. 図書館内電子掲示【0名】 e. ポスター【6名】  
f. センターからのメール【17名】 g. センターから郵送のご案内資料【21名】  
h. Facebook・Twitter【1名】 i. その他【16名】(知人からの紹介、国大図協からのメール など)

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーやシンポジウムの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：( ) 所属：( )  
電子メールアドレス：  申込時に利用したもの  それ以外 ( )  
【48名 が新規に希望】

ご協力ありがとうございました。